

体育科学習指導案（小学校6年）
単元名 ボール運動(ベースボール型)「ティーボール」

I 単元の構想

1 身に付けさせたい資質・能力及び児童の実態(男子 名, 女子 名, 計 名)

	身に付けさせたい資質・能力	児童の実態
知識・技能	○止まったボールをバットでフェアグラウンド内に打つ力。 ○打球方向に移動し、捕球したり送球したりする力。 ○守備の隊形をとって得点を与えないようにする力。	— 略 —
思考力, 判断力, 表現力等	○チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認する力。 ○簡易化されたベースボール型のゲームで、自チームや相手チームの守備の位置のよさについて、動作や言葉で他者に伝え、活用する力。	— 略 —
主体的に学習に取り組む態度	○簡易化されたゲームに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、場や用具の安全に気を配ったりする力。 ○勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたりする力。	— 略 —

2 目標

簡易化されたティーボールのルールを守り、仲間と助け合って積極的に取り組み、静止したボールを打つ攻撃や、捕球・送球する守備などの基本的なボール操作を身に付けたり、守備の隊形を作戦で考えたりしてゲームを楽しむことができる。

3 評価規準

【知能・技能（ア）】

・止まったボールをバットでフェアグラウンド内に打つことや、打球方向に移動し捕球したり送球したりして、守備の隊形をとって得点を与えないようにしている。

【思考力・判断力・表現力（イ）】

・チームの特徴に応じた守り方を知り、それに応じた作戦を立てたり、簡易化されたゲームで、自己や仲間が行っていた動き方の工夫を見付け、アドバイス等を活かそうとしたりしている。

【主体的に学習に取り組む態度（ウ）】

・ティーボールの簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組んだり、ルールを守り場や用具の安全に配慮したりしている。
・ゲームの勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたりしている。

4 単元及び指導方針

時	過程	学習課題	評価	指導方針
1	つかむ	○ティーボールの学習の進め方を知り、単元の課題をつかむ。	ウ	<ul style="list-style-type: none"> 課題や練習方法が共有しやすいように、チームメンバーやゼッケン番号は単元を通して変えずに行う。 ドリルゲームやタスクゲームのやり方が理解でき意欲的に臨めるようにルールカードを掲示したり、お手本を見せたりする。
<p>【単元の課題】</p> <p>ティーボールのルールを守り、仲間と助け合って積極的に取り組み、静止したボールを打つ攻撃や、捕球・送球する守備などの基本的なボール操作を身に付けたり、守備の隊形を作戦で考えたりしてゲームを楽しもう。</p>				
				<ul style="list-style-type: none"> ワークシート等をもとに、追究内容や方法、学習計画を明確にする。
2	追究する(前半)	プレーの原則を理解し、ゲームを試す。	アウ	<ul style="list-style-type: none"> ドリルゲームでは個人の技能が高められるように「30秒キャッチゲーム」や「ローテーションゲーム」に取り組ませる。 タスクゲームでは、チームの守備連携が高められるように、チーム内で4対4内野連携ゲーム『手投げ』に取り組ませる。 メインゲームでは、タスクゲームでのチームの反省が活かせるよ
3		○ドリルゲーム、メインゲーム、タスクゲームに取り組	アウ	

4		む。	ア ウ	うに、4対4内野連携ゲーム『バット打ち』に取り組ませる。 ・ルールを意識しながら取り組めるようにルール表を提示し、視覚的に確認できるようにする。
5	⑥ 本時 7 追 究 す る (後 半)	外野との連携を考えながら守備をする。 ○ドリルゲーム、メインゲーム、タスクゲームに取り組む。	ア ウ	・タスクゲームやメインゲームでは、さらに守備の連携が深められるように外野も加え5対5外野内野連携ゲームを行う。 ・自分の考えを伝えやすくしたり、ゲームの中の動きがイメージしやすくしたりするために、作戦ボードを準備し活用させる。
⑥ 本時 7			イ	・児童が満足感を得られるように、タスクゲームやメインゲームでは、チームの作戦やアドバイスが活かしているか観察し、積極的に称賛していく。
8		ま と め る	ア イ	・次時への課題がもてるように、各時間の最後に、学習カードにまとめをする。

II 本時の学習

<ねらい>

○外野と内野の間の中継役が入ると効率よく守備ができることに気づき、チームに合った守備の隊形を工夫する。

学習活動	支援及び留意点
1 準備・準備運動(ドリルゲーム) (10分) ○集まった児童からゼッケンをつけて準備を始める。 ○メンバーが集まったら体操をし、終わり次第ペアでキャッチゲームをする ○ローテーションゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・パスキャッチの技能が高められるように、相手の胸に投げたり、バウンドさせたりするとよいことを伝える。 ・バッティングの技能が低い児童には、バットを短くもったり、テニスラケットを使ったりしてもよいことを伝える。 ・打球が遠くまで飛ばせるようにするため、足を踏み込むことが大事だとアドバイスする。
2 本時のめあてを確認する。(全体) (4分) 遠くに飛んだボールを早くアウトにするにはどうすればよいか。	<ul style="list-style-type: none"> ・外野からのボールに中継役がいると効率よく守備ができることに自発的に気付けるように、前時の学習を振り返らせる。 ・よい動きができたときは称賛し、失敗したときは「ドンマイ」などの声を掛け合って、楽しくゲームができるように促す。 ・連携して守備ができるように、誰がどこにいればよいか声をかけ、できている児童は積極的に称賛する。 ・連携の練習になるように、バッター役の児童には遠くに投げたり、守備のいないようなところに投げたりするように声をかける。
3 チーム内で内野外野連携ゲームを行う。 『手投げ』。(タスクゲーム)(8分) 	<p>※図の「○」はアウトゾーンを意味し、アウトゾーンに送球できればアウト。送球した人や中継した人はアウトゾーンに来なくてもいいがそれ以外の全員はアウトゾーンにそれぞれ入る。</p>
4 チーム間で内野外野連携ゲーム5対5を行う。『バット打ち』(メインゲーム)(18分) ○1イニング(8分) ○作戦タイム(2分) ○2イニング(8分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が打者になれるように、スリーアウト制ではなく、全員が打者を行ったら交替とする。 ・チームへの帰属意識をもって積極的に取り組めるように、得点係、審判係など役割を確認する。 ・安全にゲームが行えるように、打ち終わった後にバットをコーンに入れば+1得点というルールを設ける。 ・得点が取れるように、どこを狙って打てばよいか声をかけ考えさせる。 ・相談し作戦を立てたことが活かせるように同じチームと2イニング目を行わせる。 <p>【思考力・判断力、表現力(イ)】(観察・発言・学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易化されたゲームで、自己や仲間が行っていた動き方の工夫を見付け、アドバイス等を活かそうとしている。

5 今日の活動の振り返りを行う。(5分)

遠くにボールが飛んだときは、中継役が入ると、アウトにしやすいことが分かった。

- ・次時への学習意欲が高まるよう、成果や課題をカードに記入させる。
- ・本時のめあてが達成できたか確認できるように、成果の具体例等を数名の児童に発表させる。
- ・まとめが書けない児童には、実行した作戦を振り返って考えるよう声をかける。

ティーボールはこんな流れで進めていくよ！！

時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目
導入	10分	①準備・準備運動(ドリルゲーム) 準備できた人からセルフキャッチボール 30秒キャッチボール ローテーションゲーム					
活動1	15分	②集合・あいさつ・学習内容の確認 ボールの打ち方や守備の仕方を理解し、ゲームをしよう					
活動2	17分	4対4内野連携ゲーム『手投げ』(チーム内)	4対4内野連携ゲーム『バット打ち』(チーム間)	5対5外野内野連携ゲーム『手投げ』(チーム内)	5対5外野内野連携ゲーム『バット打ち』(チーム間)	ティーボール大会	
まとめ	3分	学習のまとめ					

試合表

Aコート	赤-青	赤-橙	青-橙	黄-橙	青-黄	赤-黄	赤-青
Bコート	橙-黄	青-黄	赤-黄	赤-青	赤-橙	青-橙	橙-黄

授業の約束

※授業に必要な物：体育帽子、体育着、筆記用具、ゼッケン、探検バック

- 1 各班で、準備、片付けを行う。(用具は安全に設置する。)
- 2 班の人がそろったら、班長を中心に準備運動を行う。
- 3 先生の合図があったら、集合する。集合はいつもチームごとに並ぶ。
- 4 集合や移動の時は、いつも駆け足。私語はつつしむ。

練習の誓い

- ルールを守り安全に行いましょう！！
- できないことは、教え合いをしましょう！！
- できるようになった人を積極的にほめましょう！！

この学習で、頑張りたいこと、できるようになりたいことなど、めあてを書きましょう。

